プリンセス
小公女セーラ

第34話

『嵐の中のつぐない』
（仮）

AR台本

企画
制作　日本アニメーション株式会社

プ リ ン セ ス

小 公 女 セ ー ラ

第三十四話　『嵐の中のつぐない』（仮）

登場人物

セーラ……………島本須美
ミンチン…………中西妙子
アメリア…………梨羽由記子
アーメンガード…………八百板万紀
ロッティ…………渡辺菜生子
ベッキー…………鈴木みえ
ラビニア…………山田栄子

ジェシー……飯塚はるみ
ガートルード……佐々木るん
モーリー……向殿あさみ
ジェームス……郷里大輔
洋服屋の御主人……神山卓三

カメラ	画面	音声
1	激しい雨が舗道をたたきつけている、流れて行く雨水—— 木の葉が流れる 折れ枝の葉が激しい風でちぎれ飛ぶ——風にころがる枝	
2	黒い雲が突っ走っている ゆれる公園の木 しぶきでかすむ遠景の路上	
3	木の枝がゆれ、　葉がちぎれ飛ぶ 流れる黒雲 セーラの部屋の窓の片方が、パタンパタンとなっている	
4	パタンパタンと風にあおられる天窓、雨が激しく吹きこむ—— 黒い雲が突っ走る（＃6兼用） （注） セーラがのび上るように現われる、濡れている服、激しい雨風	

	に顔をそむける、髪先からした たりおちる水滴 木の葉も二、三枚飛んでくる— 一枚は手にはりつく		
5	濡れた床をたたきつける雨水 木の葉は床に舞う		
6	C＃3　兼用書き足 吹きこむ風雨—— 一寸の隙に手をのばし、扉をし めガチャガチャとするセーラの 髪からしたたりおちる水滴 振り返り、顔にはりついた髪の 毛を直す——身をちぢめ震える 窓をうつ雨激しく 下りていく A・C		
7	下りるセーラ		
8	机から床に降り 馬穴のところへ来る 寒いので身を手でつつむ——		

	9	10	11	12	13	14	15	16
力なく馬穴の雑巾をとり、吹き込んだ床の雨水を拭き始める	床の雨水を拭くセーラ 寒気がする――身を縮めて雨水を拭き始める	拭く手――したたりおちる雑巾	バケツに水をしぼり	別の所へ移り拭く	拭く、肩で息をしている―― 熱の為、体が動かないのだ	腕で、汗をぬぐい、又、拭き出すが、うつむいてしまう	力ない手―― ややあって拭き始めるが力ない	ベッドにかけられている濡れた

	寝間着、ベッドも濡れている	
17	拭くセーラ、ノックの音 セーラ、顔を上げ	S・E（ノック）（トントン） セーラ「はい、……」
18	扉、開いて ベッキー、言い乍ら入って来る セーラ	ベッキー「お早ようございます、お嬢様」 セーラ「お早ようベッキー」
19	ベッキー、床を見る ベッドの方を見	ベッキー「まあ！　どうしたのでございますか これは、 まあ、ベッドの方までビショ濡れ」
20	セーラ、立ち上り天窓を見上げ	セーラ「嵐で、窓の掛金がこわれたらしいの ……」
21	ベッキー、見上げ	ベッキー「まあ……」
22	天窓の扉、バタンバタン C＃14兼用	
23	ベッキー、セーラを見る	ベッキー「まあ、着てるものまでぬてしまって ……」

			セーラ「お蔭でなんだか寒けが……」 ベッキー「そりゃいけませんです、早く下へ行ってカマドの火で温まりませんと」 セーラ「ええ、有難う、ベッキー」
24	同・台所 カマド、燃える火、フイゴが動いている		
25	その前で暖をとるセーラ ベッキー、フイゴで風を送る セーラ、ほっとした感じ（照り返し）		ベッキー（見）「ひどい嵐でございますねえ…」
26	モーリー、ジェームス入って来る		
27	セーラ、気づき 向き直り、ベッキー、あわてて カマドのフタをする		セーラ「お早うございます、モーリーさんにジェームスさん」
28	調理台の前へinして、白布をもち上げてどかす		モーリー「フン、まだこんな支度しかしてなかったのかい」

29	セーラ、ベッキー		セーラ「すみません、嵐で屋根裏が水びたしになって、後仕末をしてたものですから」
30	C♯28兼用　ジェームス前へ出 モーリー、洗い桶にジャガイモを入れる		ジェームス「おお、もう直ぐ昨日頼んどいた、石炭が届く筈だからな、石炭置場に運び込むんだ」
31	セーラ ベッキー、セーラの顔を見て前を見 セーラ見		セーラ「はい」 ベッキー「あのー、セーラさんは寒けがするそうなんです、石炭運びは私がします」 セーラ「ベッキー……」
32	ジェームス モーリー、洗桶を持ち上げ手前へ		ジェームス「なに寒けだと……？　フン、そんなものは、石炭運びをすりゃ、汗ですっ飛んじまわあ」 モーリー「そうともさ
33	モーリー云い乍ら、ベッキーへ桶を渡し、そのまま奥にFr・out 二人にT・U 心配そうにセーラを見るベッキー		(off)〜(on)ベッキー、お前は早く食事の支度を、手伝うだよ」 ベッキー「は、はい」

	セーラ、微笑でうなづく
34	同・表 激しい風雨、ゆれる木の梢 石炭を積んだ荷車、入って来て 止る 雨合羽の男——荷台の方へ
35	荷台の上 大きな木桶を荷台から
36	斜めに掛け、スコップをとり
37	別の男が樋を下に下ろす
38	次のといをかける二人の男 手前の男、車に昇る
39A	石炭をかき落す
39B	滝のように流れ落ちる石炭
39C	石炭、滝のように落下

	山になって行く		
39D	出て来るセーラ		
40	びっくり立止る		
41	ジェームス、スコップとバケツを持って奥へ		
42	バケツとスコップを石炭の所に投げつけ、石炭の落下やむ		ジェームス「さあさあ、モタモタしてると石炭が濡れちまうぞ、早く運び込むんだ」
	ジェームス、奥へ		セーラ「はい」
43	セーラ、スコップをとると石炭の山からすくいバケツに入れる		
44	すくって		
48	バケツに入れ		

49	すくっては、入れる（2回）		
50	地下通路、セーラ、バケツを下げ、手前へ		
52	セーラ、地下作業室の方へ		
53	地下作業室 入って来る、セーラ 石炭置場の所へ、重そうにバケツを石炭入れの上にあげる		
54	バケツをあける		
55	荒い息で額をぬぐう 入って来るモーリー		モーリー「セーラ、院長先生のお許しが出たから、いますぐ教室に火を入れとくれ。それから、暖炉の掃除は忘れるんじゃないよ」 セーラ「はい、モーリーさん」
57	一階廊下 石炭バケツと附け木と両手に下		

	げて来るセーラ		
58	教室の方へ 教室に入って行く		
59	階段を下りて来るアーメンガードやロッティたち		
60	教室に入って行く、ロッティ、年少組		
61	ダンロのそば 石炭をくべているセーラ		
62	燃え上る火		
63	ロッティたち、セーラに近づき		アーメンガード「わあ、嬉しい、今日から、火を入れて下さったのね」
63	セーラ立上り		セーラ「ええ、さ、どうぞ」 ロッティ「わあ、有難う、セーラ、ママ」
64	ダンロに手をかざす、ロッティ		

	たち、年少組	
65	暖かそうに、ニコニコ顔のアーメンガード、セーラ	
66	新しい服のラビニア、ジェシーガートルード入って来る	
67	暖炉に近づき	
68	ロッティたちを押しのける 前へ出る	ラビニア「どきなさいよ」
69	ロッティ	ロッティ「あ、わたし達が先に来てるのに、ひどいわ、ひどいわ」
70	セーラ、アーメンガード、ラビニア ラビニア、ジロリと見返る	セーラ　「ラビニア」 ラビニア「なによ、ここは私たちの教室よ、仕事が終ったらさっさと出て行きなさいよ」
71		ジェシー「余計な事に口出ししないでね！」

	どっと笑う三人		ガートルード「そうよ、おじゃま虫よ、ハ、ハ、ハ、ハ、ハ……」
72	セーラ、身をかがめ		セーラ　「判ったわ」
	O・L		
73	バケツを提げ		
74	ラビニアの脇を通って、ドアの方へ バケツ、スカートにふれそうになる		ラビニア「あッ！　なにするのよ！」
75	立止る、セーラ		
76	ラビニア、にらみ オーバーに肩や袖を払う		ラビニア「この服、ママと一緒にパリで買って来た特上なのよ、石炭の粉とばさないでよ！」
77	ガートルード、ジェシー		ガートルード「悪いわ、悪いわ！」 ジェシー「謝んなさいよ！」
78	セーラ		セーラ　「ごめんなさい」

79	ラビニア	ラビニア「フン、謝り方が気に入らないけど、ま、勘弁してあげるわ……それから、私の部屋も温めといて頂戴。あとで、ジェシーたちと、トランプするんだから」
80	セーラ セーラ、歩きだす	セーラ「判ったわ……」
81	出て行くセーラ	
82	どっと笑う、ラビニア達	三人「ハ、ハ……」
83	心配そうに顔を見合せる、ロッティたち	
84	心配そうなアーメンガード	アーメンガード「セーラ……」
85	地下作業場 スコップ、石炭に	S・E「ザク……」
86	バケツに入れる、セーラ バケツに一杯にし（3回位）	

	重そうに、持つ	
87	出て行く	
88	三階・廊下 丸くなってる、シーザー ピン送ると、上って来るセーラ 重そうにバケツを持ち一歩、一 歩	
89	シーザー見 立上る、前へ	シーザー「ニャオ～」
90	シーザー近づき、セーラの足も とにすり寄る セーラ見	シーザー「ニャオ～～～～」 セーラ「まあ、シーザー、あなたも寒いのね」
91	シーザー	シーザー「ニャオ～」
92	セーラ セーラ、歩きだす	セーラ「判ったわ、今温めてあげるからいらっしゃい」
93	ラビニアの部屋の方へ	

	ついて行く、シーザー	
94	ラビニアの部屋のダンロに燃える火	
95	セーラ、首をちぢめ寒そうに手をかざしひざを下ろすセーラ シーザーを見て シーザー、見上げて啼く 窓の外は雨と風が激しい	セーラ「さ……シーザー……一緒に暖たまりましょうね……」 シーザー「ニャオー……！」
96	セーラの身体にくっつくようにして蹲るシーザー 火の照り返しが暖かそう……	
97	シーザーを見つめるセーラ、微笑して、手をかざして暖まる 火の照り返しが顔を赤くする	
98	暖ますセーラ—— 窓の外は雨と風が激しい—— 学校の前の木立の梢もゆれてい	

	る	
99	一階廊下、静かである、雨、風 の音がきこえるのみである アメリア、院長室から出て来て 廊下の中央で鐘を振る	
100	鐘を振るアメリア、戻っていく （out） ミンチンが教科書をもって廊下 を通り過ぎていく ラビニア、ジェシー、ガートル ードの三人がにぎやかに通過し ていく	
101	ラビニア、踊り場の窓辺に寄っ て来て外を見る ジェシー、ガートルードも近づ いて外を見る 雨が風をともなって降っている	
102	外を見つめているラビニアたち 手前の階段をのぼってくる、	

	ダイアナ、クリステルなどが来ると振り返り見て、ジェシー、ガートルードをうながして階段を昇っていく、ラビニアたち嬌声を上げながら		
103	隣りの家の間から見えるわずかな窓に黒い雲が流れていく（引き） 煙突の煙りもちぎれるように飛んでいく 窓をうつ雨、伝って流れる		
104	にぎやかに嬌声を上げながら三階への階段を昇ってくるラビニアたち、三人		
105	にぎやかに扉のところにやってくる三人 扉に手をかけ開けかけるラビニア		三人「ハハ、フフ、フフ……」etc
106	扉、開けて入ってくる三人		

	ラビニア、笑いながら手前に来る、入ってくる後に続く二人 ダンロの方を見てアッとなる 三人	
107	暖炉の前でバケツに凭れて眠っているセーラ、傍にシーザー 近づくラビニア、いかりに強くにぎられた手	
108	にらみつける	ラビニア「まあー!! 呆れた……! こんなところで盗み寝してたんだわ!」
109	ジェシーとガートルード、ラビニアの傍に来て、にくにくしげな顔でセーラを見る ガートルード、ジェシィと顔を見合せて、大きくうなづき合う	ジェシー「おまけに猫と一緒に寝ているなんて……」 ガートルード「院長先生に云いつけてやるといいわ!」
110	眠っているセーラ	
111	つり上っていく眉、イカリその	

	極に達して急に前へ出る		ラビニア「起きなさいよ！」
112	C#110 書き足し　馬穴をける ラビニアの足		
113	馬穴、暖炉に当り 横になる		
114	床にうづくまるセーラ、　肩で息をして苦しげである 首だけもち上げて上を見る		
115	見下ろしているラビニア		
116	這いつくばっているセーラを見下ろして三人顔を見合せて、くすくす笑う		
117	やや苦しそうにあえぎ乍ら立ち上るセーラ FOLLOW・PAN 立ち上り、衣服を直しながら はっとなってラビニアの方を見		セーラ　「……ごめんなさい……！ ……私、いつの間にか……」 ラビニア(off)「なにが―― いつの間にかよ……

	る		
118	顔をセーラの前につき出すようにして		……私の部屋で勝手に寝込むなんて、……図々しいったらありゃしないわー！」
119	苦しそうにうつむく		セーラ「……許して、……ラビニア……。私、とても寒気がして……一寸温まらせて頂いているうちに、つい……」
120	プンと横を向いて手前に来るラビニア、ちらりと足許をにらみつけて		ラビニア「云い訳は、タ、ク、サ、ンよ——！ なによ！ 猫まで勝手に私の部屋に入れたりして……！」
121	むっくりおき上るシーザー、振り返り見る		シーザー「ニャーオー……！」
122	猫をにらみつけて、手で追い拭う 飛ぶように逃げるシーザー		ラビニア「シーッ!! 出ていきなさい！」
123	本箱の隅に逃げこむシーザー ラビニア来る、シーザーあわてて		

	て逃げる		
124	テーブルの下に入りうづくまる シーザー、ジェシー来る 椅子をゆらしておどす きょろきょろしているシーザー		ジェシー「ホラ……!! ホラ……行きなさいよ!」
125	テーブルの下に顔を出して シーザーを追うガートルード シーザー逃げる		ガートルード「シーッ、シーッ!!」
126	セーラ、はっとなった表情		セーラ「シーザー!!」
127	逃げてソファの下に入り振り返 りこちらを見るシーザー		シーザー「ニャゴー、ニャゴー」
128	三人、顔を見合せて笑う (ガートルード起き上り) ラビニア、シーザーの方を見て 行く——つづいて二人も		
129	三人が手前にせまってくる(ゆ っくりと)シーザー逃げる		

	追うラビニア		
130	椅子から机に移るシーザー シーザーあわてて逃げる―― インク壺をけって――		ラビニア「……やめてよー！」
131	胸許にあたるインク壺 とび散るインク壺は下へ落ちる		ラビニア「あーっ！」
132	はっとなるセーラ 逃げていくシーザー		セーラ　「……シーザー！」
133	胸元を見つめているラビニアの後姿――振り返ると、胸元にインクのしみを茫然と見つめている		
134	茫然と見つめる二人		
135	じっと胸元を見つめるラビニアを見る三人 ラビニア、きっとなって、セーラをにらみ		ラビニア「あんたのせいよ！」

136	唖然とする		セーラ　「え……！」
137	となりいきなり身かわして次室の方へ走るラビニア		ラビニア「勝手に猫を入れたあんたのせいよ！」
138	窓をたたきつける雨、黒い雲が流れていく、ゆれる木の梢		
139	廊下で身づくろいをしているシーザー		シーザー「ニャオン！　ニャオン！」
140	服をみせながら　T・U		ラビニア「見なさいよ!!……私の一番新しい、一番高い服が台無しじゃないの！　弁償しなさいよ！」
141	みつめるセーラ くるくると洋服を丸めるラビニアの手 口唇をかみしめているセーラ ポンと投げる 受取るセーラ、じっと洋服を見つめる		

142	じっと見つめるラビニア、口許をゆがめて ニヤリとして、横を向き、いやみたっぷりにあるいていく		ラビニア「フン……といっても、今のあんたに 弁償なんて出来る筈なかったわねえ…」
143	洋服をもって、ラビニアを見つめるセーラ		
144	椅子に座るラビニア		ラビニア「……いいわ、兎に角、その服を元通 りにしたら許してあげるわ」
145	きっとなって		ラビニア「……でない限り、どんなに謝ったっ て許してなんかやらないわよ！」
146	茫然として見つめるセーラ		
147	セーラをにらむ三人 顔を見合せて笑う三人		三　人「フフ……フ……」
148	C ♯146兼用 じっと見つめるセーラ		

149	150	151	152	153
石段を流れおちる雨水 公園の木の梢もゆれている―― 激しい雨 濡れながら行く辻馬車――ＳＬ――	出てくるセーラ、髪の毛を手でおさえる 傘、風で思うように開かない 何とかひらく――風、ゆれる傘 両手で傘をもち階段を昇り始める	両手で傘を支えるセーラの手、籠の中に紙にくるんだ洋服が入っている	木の葉やごみが流れる石段を昇るセーラの足、風でゆれるスカート	ベッキーが顔を出して心配げに見守る
				ベッキー「お嬢様……！」

154	石段を昇りきるセーラ、風に傘があおられ、傘も身体もゆれる 斜めに傘をもって出ていく		
155	川のように流れる路上を行くセーラ、公園の木の梢ゆれ黒い雲 流れていく		
156	傘を支えて行くセーラ FOLLOW　傘の先端からしたたり落ち飛ぶ水滴		
157	歩道を行く人の足 セーラの足が入っていく、　スカートの裾が濡れている		
158	看板がゆれている 傘が雨にたたかれながら行く		
159	風で傘をとばされそうになる セーラ すぼめて歩き始める、　止まってしまう		

160	雨が顔にあたる、熱のため半口をあけて苦しそうである 肩で息をしている―― あるき出すセーラ
161	雨の中を疾走する馬車 傘をさしている人、いない人 様々である―― 黒い雲が流れて――いく
162	辻に立っているセーラ（考えているの、たと）横切って走る
163	アーケードのあるところへ走りこんでいくセーラ
164	入って来て止まる、傘やスカートの裾からしたたり落ちる水滴べったりとひたいににりついている髪の毛
165	濡れている顔、髪の毛を直すセーラ

	寒けの為に身体を縮める		
166	衣服、傘、等からしたたりおちる水滴		
167	雨に濡れないアーケードと看板		
168	濡れていない人々、と濡れているセーラが歩いていく—— (傘をもっていますよ!) 足止まる		
169	一点をみつめるセーラ 後に行き交う人々		
170	高級子供服店前 行き交う人々　T・U (カット頭から尻止)		
171	C#169兼用　頭T・U 尻止めなし		
171A	2話のデューブ使用		

カット	内容		台詞
172	C#169〜171兼用　書き足し 微笑していた顔が淋しい顔になっていく		
173	ウィンドウに映るセーラ		セーラⓂ「お父様とここに来たのは、なんだか、ずっと昔の事だったような気がする、……店の御主人が、私を憶えていて下さるといいのだけれど……」
174	店内を見つめたセーラ、内部を見ながら移動していき止る—— 内部を見つめる		
175	店内、店員と品定めをしている店の主人 うなづき振り返り、手前に品物をもってくる店員—— 主人も振り返り、手前にいる客に愛想よく礼をする ——オヤとなって外を見る主人		
176	C#174兼用　書き足し ウインドウの外のセーラ、ある		

	いて見えなくなる		
177	首を一寸ひねり考える主人		
178	ウインドウの蔭のセーラ止まっている ややあってから人々の前へ進 ノブに手をかける—— はっとなって止り、考えこむ—— 顔を上げて、大きく息をすいこみ入る		S・E　（鈴の音）
179	前に出てうれしそうな顔の主人		主人　「おう……やっぱり……！　あのときのお嬢さん……！」
180	ノブから手をはなし振り返る セーラ、近づく主人 （注）傘は入口、外においてきます		セーラ　「はい……」
181	振り返り見る客と店員		
182	ちらりと客と店員の方を見る		

	主人――セーラの方を見て同情 の表情になり うつむいていくセーラ 一人うなづく主人、小声でやさ しく囁くように……	主　人「ああ……それにしても…… うん、うん……。ひと口では云えぬ事 情がおありのようだね……」
183	淋しげにうつむいていたセーラ 顔を上げる	セーラ「……私……御主人におねがいがあっ てうかがったんです」
184	にっこりとやさしい顔の主人	主　人「ほう……私に……いいですよ……」
185	喜びの表情、安心したセーラ 籠の紙包を出す 包みからシミのついたラビニア の衣裳出す 衣裳を差し出す――受けとる主 人	セーラ「はい……これを……なんとか…… 元通りにして頂きたいのですが……」
186	主人、洋服を一寸見て	主　人「ほう……これは！……パリ仕立！」
187	女性客びっくりする 主人、拡げて見る	主　人「……う、……これは……インクの、

			シミ……」
189	うなづくセーラ うなだれていく 目に泪が浮ぶ―― 泪で声がつまる――		セーラ　「はい……お友達の大事な服なんです …… ……元通りにならないと、……私…… 私……」
190	うつむいているセーラをじっと 見つめる主人		
191	袖口のやぶれた服、末だ濡れて いる わずかにふるえている手		
192	じっとセーラをみつめる主人 口唇をかみしめ、自分もこみ上 げてくる悲しさをこらえる―― 目もつむっていく もう一度洋服をもち上げて見る 主人		
193	心配そうに見つめる客と若い店 員		

カット	画面	セリフ
194	うなだれているセーラ、目に一杯の泪	
195	洋服を下ろし、セーラを見つめる主人――やさしく言う	主人「……、出来ますよ……お嬢さん……」
196	顔を上げるセーラに喜色が浮ぶ 主人やさしく肩に手をかけ 主人をじっと見つめるセーラ うれしい顔に、泪が一条、すーと流れ落ちる	主人「……安心しなさい、……シミは抜いてあげますよ！」 セーラ「……よかった……」
197	うんうんと何度もうなずく主人 セーラの泪を指先で拭いてあげる、カット尻	主人「……（小声でいたずらっぽく小さい子供にいうように）さあ……可愛い顔が台なしになりますよ……」
198	主人の指先が泪を拭く はづかしそうに泪顔で笑う、セーラ	
199	C＃197兼用　書き足し 主人もにっこりしておき上る	
A・C		

200	起き上る主人――セーラと主人 微笑み合う 二人をみつめている若い店員と 女客、ほっとして顔を見合わせ て微笑み合う―― A・C		主人「……お使いにいく途中なんでしょ……」 セーラ「はい、コベント・ガーデンまで……」
201	手にした洋服をもち上げる		主人「それは大変だ……では、先にそれを 済ませて来て下さい……その頃までに、 この服お返し出来ますよ……」
202	微笑みのセーラ、叩頭して 会釈して扉の方へ向うセーラ 扉のところ把手に手をかけ振り 返るセーラ		セーラ「はい……！ それでは帰りにまた…」
203	大きくうなづく主人 大きく溜息を吐く		S・E（扉の開ける音、――閉まる音）
204	コベント・ガーデン 叩きつける風雨、転がる空樽 PAN→ セーラ来る		
205	セーラ、見廻している		

206	ガランとしたコベント・ガーデン、テントがパタパタしている ゴミが雨水で流れている PAN← (カット一杯)		
207	セーラ 歩きだす		セーラ「駄目だわ、この嵐で、何処のお店もお休みなんだわ、ほかの市場を探してみなくては……」
208	道――雨水が流れて行く、激しい風にあおられる、スカートの裾をなびかせて、セーラの足が行く（一歩あるいては止り、又あるき出すというように――）		
209	屋台の骨組みだけになって、テントははずされている――市場 セーラ来る		
210	風にあおられ乍ら見回るセーラ		
211	屋台の骨組みのみの市場、ガランとしている		

212	見回すセーラ 風強く、傘をあおる、必死にこ らえるセーラ		セーラ　「ここも全部お休み……ピーターがい れば、開いているお店を教えて貰えた のに……」
213	街の辻、傘をさし行き交う人 雨と風		
214	汚水が流れていく、セーラの足 が濡れて、力なく歩いて来て ポラード前に止る、風でなびく スカート、濡れている―― びしょ濡れの靴		
215	ポラードによりかかり、あえぐ セーラ		
216	なびく髪――したたりおちる水 滴、苦しそうにしているセーラ の額にはりつく髪の毛		
217	ポラードによりかかっている セーラ――		

	風で時々傘があおられる	
218	濡れるガス灯とセーラ 馬車がセーラの傍を通過していく	
219	車輪が水をはねる、上る	
220	はねた水が顔にあたる （C＃216 書き足し） 顔を濡らして流れる水—— 顔を手で拭く—— 額に手をあてた手が止る、やや苦しそうにして 起き上る	セーラ　「いけない……風邪をひいたかも…… ……頑張らなくては……」
221	あるき出す 風に傘があおられる、必死にこらえて前傾姿勢になり——あるき始める	
222	力なくあるいていくセーラの足 —— out	

	雨水が流れおちる 雨風――激しくなっていく――	
223	ロンドンの屋根、黒い雲が流れていく―― 煙突の煙が風に飛ばされていく ――激しい雨	
224	高級子供服店のウィンドウ したたりおちる水滴の傘がおかれる セーラのスカート――店の中へ入っていく	S・E　（扉の開閉音）
225	カウンターの前にいた主人、振り返る ――手にラビニアの服をもってあるく主人	主　人　「やあ……おまちしてましたよ」
226	主人、セーラに寄っていく セーラ一、二歩前に出て、遠慮がちに言う 主人、ラビニアの服を拡げ	セーラ　「あの……直していただけたのでしょうか……」 主　人　「はい、

	見せる		この通り」
227	きれいに直った服		
228	セーラ、喜びの色が顔に浮ぶ		セーラ　「まあ……！」
229	微笑している主人		主　人　「私が腕をふるってシミ抜きをしておきましたよ」
230	セーラ、服に手をかけて 主人、頷く		セーラ　「まあ、……その上アイロンまでかけて下さって……」 主　人　「……これなら、お友達とかに文句を云われる筋はないでしょう……」
231	うなづくセーラ、喜しさのあまり泣き出しそうな顔でじっと主人を見つめる、震える口唇―― 泪がにじむ		セーラ　「……ありがとう御座います……」
232	主人、じっと見つめうなづき 奥の店員の方を見る 若い店員来て、主人から受けとる		主　人　「……では、おつつみしましょう……」

233	店員、カウンターの上の油紙の上にのせ 包装しはじめる		
234	セーラ、主人の方を見 主人、セーラの方へ向き直る 主人、見返り		セーラ「あの……」 主　人「え……なにか……」
235	オズオズと言うセーラ		セーラ「あの……、お代の事なんですけど…、実は、私……」
236	主人、首を振り やさしく、セーラの方にかがみ込むようにして		主　人「とんでもない……! うちの人形…を、エミリーと名づけて下さったでしょ……。 ⓞff あのエミリーを大事にして下さってるあなたから、 1ペニーだって頂くわけには参りませんよ、御心配なく……」
237	セーラ、ポカンとしている		
238	やさしいほほえみを見せる		
339	セーラ、感激 T・U ほほえみが顔に充ちあふれる		セーラ「まあ」

240	主人、真顔になり		主人「それより……失礼なこときくようだが……大分、身の上がお変りのようですが……よろしければ、訳をお聞かせ頂きたいのですが……」
241	セーラ、じっと、主人をみつめうなづき　T・U うつむくセーラ		セーラ「ええ……ここでエミリーと出合ったときの私ではないんです……。お父様が亡くなって、学校のメイド代りなんです」
242	主人		主人「ほほう……」
243	顔を上げるセーラの顔は明るい		セーラ「でも、お世話になった事はいつか、きっとお返に上るつもりです」
244	主人、深くうなづく		
245	じっと見つめるセーラ こみあげてくるうれしさと泪を流すまいとして、口唇を震わせてこらえる――泪がにじんでいる目、うつむいていく		

246	主人、やさしくセーラの手をとり握りしめる セーラ、主人を見上げ泪のにじむ目で微笑む―― やさしくうなづく主人		
247	花と鏡 主人、入って来、扉をあける		
248	出てくるセーラ、振り返り主人を見上げる C #178兼用		主人「この嵐でも大丈夫のように油紙で包んでおきましたからね」 セーラ「ありがとうございます」
249	主人やさしい顔で		主人「では気をつけて、どんな嵐にも負けんようにね」
250	にっこりとして		セーラ「はい……」
251	セーラ、微笑で、主人と店員に会釈し去るセーラ、見送る二人 主人、店員と顔を見合せ 主人にT・U　十字を切る主人 手を組み		主人「どうか神様が、あの子をお守り下さるよう……」

252	黒い雲が流れていく セーラ、傘をすぼめて奥へいく		
253	風にあおられる——もち直そうとする——が、傘、オチョコになる　ＳＴＯＰ　傘を手に買物籠をかかえ、歩き出す		
254	髪の毛を押えながら行くセーラ —ＳＬ—		
255	あえぎながら行くセーラ ＦＯＬＬＯＷ		
256	水をはね上げながら行く足 （ゆっくりと）		
257	窓に明がつく　ＢＡＮＫ兼 塀にはりついたポスター、ぱたぱたしている、はがれ飛ぶ		
258	台所（夜） ジェームス		ジェームス「なんだと?!　嵐でみんな店が閉っ

	セーラ、モーリー、ジェームス	てただと?!」 セーラ「はい、それでとうとう買物が」
260	ジェームス、モーリー	ジェームス「じゃあ、なんだってさっさと帰って来なかったんだ、え? 一体、何時間ほっつき歩いて、来やがったんだよ」 セーラ「そ、それは……」
261	ジェームス、セーラ	
262	モーリー セーラの腕をつかんで引立てる	モーリー「フン、お前が帰らない事は、ちゃんと院長先生に報告してあるからね、さ、眼の前で申し開きするんだよ!」
263	食事をする生徒を見守るミンチン モーリー、セーラ入って来る ミンチン見る	モーリー「院長先生! 帰って来ましたよ、この人騒がせが……」
264	ミンチン、ジロリと見	ミンチン「何処へ行っていたのです」
265	セーラ、モーリー	セーラ「はい、実は、ラビニアさんの服のシ

		ミ抜きに……」
266	ジェシーと顔を見合せて にやとするラビニア 包みをとり	
267	近づくセーラから包を引ったく り、油紙を引き破って服を出す	ミンチン「……おみせ！」
268	アメリア、ロッティ心配そう	アメリア「まあ、ラビニアさんの一番新しい服 に間違いありませんわ」
269	ミンチン、ラビニアの方を見	ミンチン「ラビニアさん、セーラの言う事は、 本当なんですね」
270	ラビニア、席から立って	ラビニア「はい、その通りです、彼女は私をね たんでわざとその服にインクをこぼし たんです」
271	ミンチン オドロク、セーラ	ミンチン「なんですって」
272	ラビニア	ラビニア「それを私たちに見つかって、仕方な

			くシミ抜きに行ったんです」
273	スカートを握りしめるミンチン に近づくセーラ		セーラ　「ちがいます！　院長先生!!」
274	セーラをにらみつけ―― モーリーに		ミンチン「おだまり！　お前という人間は、なんで、心がねじけているんです！ モーリー、今夜はたっぷり仕置きしておやり」
275	緊張するモーリー前に出て セーラを腕をつかむ ラビニアの方見返り、呟く		モーリー「はい、院長先生、さ、おいで！」 セーラ　「……ラビニア……！」
276	冷笑で見送るラビニア		
277	同・洗い場（夜） 手前から、床に転ぶセーラ （画面背中一杯から）		セーラ　「あ〜っ！」
278	セーラナメ　モーリー モーリー、出て行く		モーリー「フン、サボってた分だけ働かないうちは寝かさないから、そのつもりでおいで！」

279	駆け寄り抱き起すベッキー （ひざをついて抱きおこす）	ベッキー「お嬢様」
280	抱きおこすベッキー あえぐセーラ、トロンとした目付でベッキーを見つめて—— ガクンとうなだれる…… ベッキーの腕の中へ倒れるセーラ じっと見つめるベッキー、呟く	ベッキー「ま…あ……こんなに濡れて……！」 セーラ「……ベッキー……」 ベッキー「……お嬢様……！」
281	窓をうつ雨風……セーラを抱きしめている、ベッキー	S・E （風雨の増々激しくなっていく）
282	暗いセーラの部屋の窓をうつ雨風	
283	机に倒れこんでいるセーラ	
284	うなだれるセーラ——手をのばす——止る、力がないのだ—— 何とかとる写真、見つめて苦しくあえぐ	

	冷汗がにじんでいる		
285	メルー家、心配げに見つめている、チビが手前にチョロチョロ来て見つめる		
286	じっと写真を見つめるセーラ		
287	あえぎながら、ひたい浮ぶ汗をそのままにじっと見つめるセーラ		セーラ 「……お父様……」
289	写真		
290	苦しそうに、肩で息をしている セーラ T・U F・O		